

# すぎなみ産

vol.7

2023

令和5年10月発行

世界トップクラスのシエアを誇る  
長く明るく鮮やかな光

白寿も目前に  
現役で活躍し続ける時計職人  
魅惑の指輪を次ぎ、  
ハイオロン製作40数年

杉並で見つける  
お気に入りの飲食店

すぎなみの味めぐり

杉並区





表紙写真は暗室で撮影したもの。蛍光灯の下ではこのとおり白っぽく見える。

暗闇の中で光り続ける不思議な顔料で世界の頂点に立つ「根本特殊化学株式会社」

## 「安全・安心」と「健康」に貢献する杉並の企業

2010年代に入ってから、企業の間でパーパスという言葉が広まった。

「目的」や「目標」などと直訳される英単語で、企業の場合は「自分たちの存在意義」といった意味合いで解釈されている。

企業は「ミッション」や「ビジョン」といった言葉もよく用いているが、こちらは「自分たちの使命」や「自分たちが実現したい未来」のことで、めざしているゴールのようなものだと言える。これに対し、「自分たちが何のために存在しているのか」を示しているのがパーパスだ。

今回、特集でクローズアップする根本特殊化学株式会社のパーパスは、

「技術とサービスを通じて、より安全・安心で健康的な社会の実現に貢献する」。

おそらく、この企業は「安全・安心」と「健康」に役立つために存在しているということなのだろう。改めて考えてみれば、

それら3つは地球上の誰もが願っていることだと言える。

いったいこの企業は、「安全・安心」と「健康」のためにどういった製品を世の中に送り出しているのか？

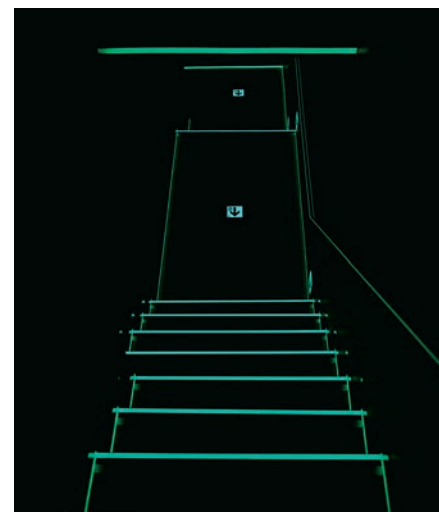
実は、その製品の多くは、私たちのごく身近な場所のあちこちで見つけられるものだ。



社内ショールームに飾られた非常口蓄光標識など。もしものときの安全を守るために根本特殊化学の蓄光顔料N夜光\*が練り込まれて作られている。



自動車のトランクに閉じ込められてしまったときなどに内側から開けるレバーにも根本特殊化学の蓄光顔料N夜光\*が使われている。



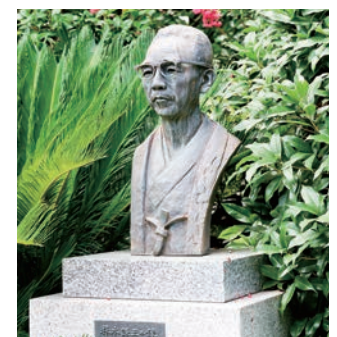
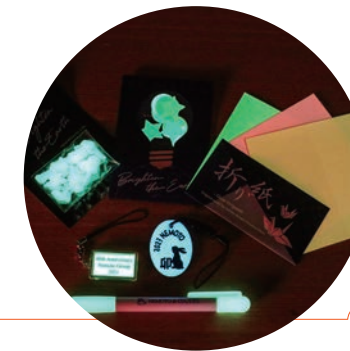
緑に光るものが一般的だが、根本特殊化学では青緑、水色、赤や橙に発光する商品も開発している。紙にも用いることができ、暗闇で光る折り紙としても応用が可能だ。



蛍光灯などの光の下で見ると暗室で見るとのでは、このとおりの差。電気を使わなくても光ることが特徴であり、メーカーなどのアイデアによりさまざまな製品に活用されている。

社内ショールームからの出口階段で、避難誘導シーンのデモンストレーションを体験。1段ごとに設置された蓄光ステップにより暗闇でも歩きやすい。(写真左)

菓子のパッケージや、スニーカーのデコレーションなど、思いもよぬシーンで使われることも。写真はPRなどのために自社で作ったノベルティ。(写真下)



敷地内には創業者である根本謙三さんの銅像が建てられている。

### ■企業情報

- 会社名:根本特殊化学株式会社
- 所在地:168-0072 杉並区高井戸東4-10-9
- 代表取締役社長:根本美恵子
- 創業:1941年
- 事業内容:蛍光体事業、センサ事業、ライフサイエンス事業
- TEL:03-3333-2711
- <https://www.nemoto.co.jp/>
- ※ショールームは一般非公開





## 光をエネルギーとして蓄え、暗くなっても輝き続ける特性を生かして、時計の文字盤や針から非常口標識まで、幅広く使用されている「蓄光顔料」のトップシェア企業

映画館やコンサートホール、地下鉄の構内、大型商業施設など、あちこちで頻繁に目にするのが非常口標識。「安全・安心」のために消防法によって設置が義務づけられたものだが、その中にはライトアップ(電灯)に頼ることなく、標識自らが蓄光で発光しているタイプもある。「N夜光®」と呼ばれる特殊な発光材料を用いており、根本特殊化学株式会社はこの分野において、国内外でトップのシェアを誇っている。



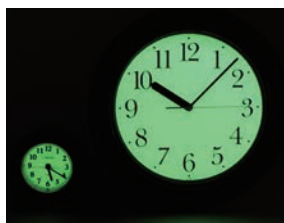
代表取締役社長の根本美恵子さん

### 暗闇の中で光り続ける特性のある蓄光顔料「N夜光®」で世界的なシェアを握る

普段、すっかり当たり前のことだから、何となく見過ごしているものの、誰かに問いかげられると、すぐには答えられないことは多い。「暗闇になると、時計の文字盤はどうして光るのか?」という質問もその一つに挙げられる。「光る塗料が塗られているから」と答える人もいるだろうが、その蓄光塗料がなぜ光るのかは説明しづらいはずだ。

その光る塗料の正体は蓄光顔料「N夜光®」と呼ばれる発光材料で、太陽光や照明の光をエネルギーとして蓄えられる特性を持っていることから、光が閉ざされた後も輝き続ける。他にもこの顔料は、身近な場所のあちこちで使用されている。最もわかりやすい例が非常口標識だろう。映画館やコンサートホールで場内が暗くなった瞬間から輝き始めるお馴染みの標識だ。

背後から電灯で照らすタイプもあるが、その光源を消費電力の少ないLED蛍光灯に交換しても、CO<sub>2</sub>の発生源となっていることは否めない。その点、蓄光顔料の残光で明るく



時計の文字盤や針などに用いる蓄光顔料でトップシェアを誇る根本特殊化学。独自製品「N夜光®」はまさに社運を賭けて、研究者たちの努力によって開発された。多角化で、熱伝導式ガスセンサやライフサイエンス事業も手掛ける。

照らし出される非常口蓄光標識は究極のエコだと言える。実は、今回の特集記事で取り上げる根本特殊化学の主力商品の一つが蓄光顔料「N夜光®」だ。日本の時計メーカー向けの蓄光付時計ではほぼ100%のシェアを誇り、世界的に高いシェアを握っている。

### 空港の手荷物検査に用いる「特殊蛍光体」やライフサイエンスの分野でも高い実績を上げる

「玩具などに用いるケースと違い、時計用の蓄光顔料には長時間にわたって光り続けることが求められています。ダイバーズウォッチに使用するものは、水中に潜っている最中に消えてしまったら大変なことになりかねません」

こう説明するのは、根本特殊化学代表取締役社長の根本美恵子さんだ。蓄光顔料のほかに光の色を変換する特性のある特殊蛍光体もこの企業の主力製品だ。こちらはLED用蛍光体や、有価証券の贋造防止用蛍光体、医療・検査機器用蛍光体などに使用されている。空港の手荷物検査装置のように、X線とともに特殊蛍光体を使用すると、人体や物体の内部を可視化できるのだ。

また、根本特殊化学は自社で製造した蓄光顔料を文字盤などに印刷する時計部品の加工も手掛けている。またコア技術である放射線取扱技術を活かして、グループ会社とそのノウハウを活用してガスセンサの開発や、薬物動態試験などのライフサイエンス事業も展開している。

この特集の冒頭で、根本特殊化学のパーパス(存在意義)が「安心・安全」と「健康」に貢献することにあるという話に触れた。先に列挙した製品・サービスは、いずれもこのパーパスのキーワードに合致している。

## 働く本音を聞きました

日々、会社で働く方に直撃インタビュー。働き方や仕事のやりがいなどを聞いてみました。

御社の良いところって何ですか?



専務取締役 村田充洋さん

—御社で働き出したきっかけは何でしたか。

もともとは銀行に勤めていて、根本特殊化学の担当でした。そこでの根本郁芳社長(当時)とのご縁から、まずは社内の体制作りのお手伝いというかたちで入社し、現在に至ります。創業者や約60年トップとして会社を引っ張ってきた郁芳氏の考え方などを10項目にまとめたのが「ネモトグループメンバーの考動規範」です。

—どのようなことに気をつけて作りましたか。

当社には家族的風土があると思います。社長は「私は社員のおっかさんだ」って言うんです。「甘やかす」ということでなく、「厳しくも温かく見る」ということですね。そうした考え方も取り入れながら、コロナ禍に社内で議論しながら作りました。考動規範の中身は、当たり前のようなことも書かれていますから、まさに親から子へのしつけのようなものと言ってもいいかもしれません。

### 規範がグループ内に浸透

—考動規範は実際にどのように使われているのですか。

作ってもやはり浸透しないと意味がありません。そこで、これにちなんだエピソードトークを一人ずつ全体昼礼で話してもらっています。自分の経験談を、規範の10項目のどれかに紐づけて話します。皆さん、いい話をしてくれます。規範が浸透すると現場ごとで物事を判断するための目安になると思っています。実際に今では、例えば協力してもらいた

いときなどに「8番(コミュニケーションの重要性が書かれた項目)を見てください」と、項目番号での会話も生まれていますね。

—共通言語になっているんですね。

特に嬉しかったのが中国の工場でも浸透していたことです。コロナ禍の行動制限が緩和されて、本社から上海・大連工場に行ったら中国語版の考動規範が貼ってあったそうです。ただ、本社からは何も指示をしていなくて。でも皆さん「私たちがネモトの一員です」と、自発的に貼り出して、毎週読み上げていました。しかもそこだけでなく、他の拠点でも同じことをしてくれているとのこと。策定に携わった一人として、こんなに嬉しかったことはなかったですね。

### 会社の考え方への共感

—将来の仕事を選ぶ若者に伝えたいことはありますか。

私たちの仕事では、例えば機能材料が非常用の安全製品となって、命を救うことにつながっていることなどが、大きな働き甲斐になっています。ですから、自分のやる事が「世の中のためになっている」と思って仕事をしている社員が多いと思います。入社を希望してくださる方の中には「御社のパーパスに共感しました」と言ってくださることもあり、とても嬉しくなりますね。小さくとも世のため人のための仕事をしている会社に共感して働くという選び方もあることも知ってもらいたいと思います。



考動規範は、名刺大に折り曲げることができる。日々、持ち歩き、何度も読み返せるようにという思いの表れだ。

### ■根本特殊化学の歩み

- |             |                                      |             |                                     |
|-------------|--------------------------------------|-------------|-------------------------------------|
| 1941(昭和16)年 | 夜光塗装加工、夜光塗料販売を目的に根本謙三が国際化学研究所として個人創業 | 1978(昭和53)年 | 高井戸技術開発センター落成<br>香港合弁会社王氏根本工業有限公司設立 |
| 1948(昭和23)年 | 合資会社根本光化学研究所を設立                      | 1990(平成2)年  | ボルトガル法人設立                           |
| 1960(昭和35)年 | 高井戸工場落成                              | 1993(平成5)年  | N夜光®開発                              |
| 1962(昭和37)年 | 根本特殊化学株式会社に改組                        | 2010(平成22)年 | 本社事務所を高井戸の自社ビル(旧技術開発センター)に移転        |
| 1964(昭和39)年 | 根本郁芳が2代目社長に就任                        | 2019(令和元)年  | 根本美恵子が5代目社長に就任                      |
| 1970(昭和45)年 | カツラ・ケミー設立(翌年ネモト・ケミーに商号変更)            | 2021(令和3)年  | 創業80周年                              |
| 1977(昭和52)年 | チューリッヒ連絡事務所開設                        |             |                                     |



# 有害物質を一切含まず、CO<sub>2</sub>も発生させることなく、 明るさと光り続ける時間が 従来品の約10倍の新製品を開発

## 祖父から父、父から娘へと タスキが受け継がれて80余年

根本特殊化学は80年を超える歴史を持ち、その創業は太平洋戦争が勃発した1941(昭和16)年12月8日だった。美恵子さんの祖父である根本謙三さんが創業し、当初は国際化学研究所という名称で、夜光塗料を販売するビジネスを始めた。戦時にはその需要が伸びると考えたからだ。謙三さんは非常に多才だったようで、大手新聞社経済部で記者を務めたり、「子供の科学」編集に携わったりしたこともあったとか。美恵子さんはこう振り返る。

「祖父は私が高校生の頃まで同居していて、奥の離れに住んでいました。私は“おじいちゃん子”で、祖父の部屋にずっと入り浸り。趣味で収集していた美術品のことから哲学に天文学、演劇まで、とにかく祖父は博学で、いろいろな話を聞いたり、学校の宿題を教えてもらったりしていました」

さらに、インドの革命家であるチャンドラ・ボースが戦時中に亡命先のドイツから来日した際、潜水艦に積んでいた夜光材料が港の倉庫に眠っていることを知った謙三さんは、終戦後にすべて買い占めた。これが後の夜光時計用夜光塗料の原料となり、事業の発展につながったのだ。

経営を軌道に乗せると、謙三さんは1964年に社長職を退いた。代わってタスキを受け取ったのは、美恵子さんの父である根本郁芳さんだ。経営に関する謙三さんの教えは、①特殊なもの(人のやらないもの)を手掛けよ、②トラックで運ぶような事業はするな、③ひとつの事業は30年と続かない、の三つだった。残念ながら郁芳さんは2022年に他界しており、この教えの解釈について美恵子さんが代わりに説明する。

「特殊なものとは、『蓄光顔料』がその典型でしょう。トラックで運ぶような事業とは、大量生産・薄利多売の商売を意味していると思います。そして、三つ目の教えを踏まえて父が自分の代に推進したのが多角化と国際化(グローバル展開)です。事業領域を『安全・安心』に加えて『健康』にも広げ、90年代初めにはポルトガルや中国にも生産拠点を設けました」。



創業者 根本謙三さん

### 創業者の教え

- ①特殊なもの(人のやらないもの)を手掛けよ
- ②トラックで運ぶような事業はするな
- ③ひとつの事業は30年と続かない

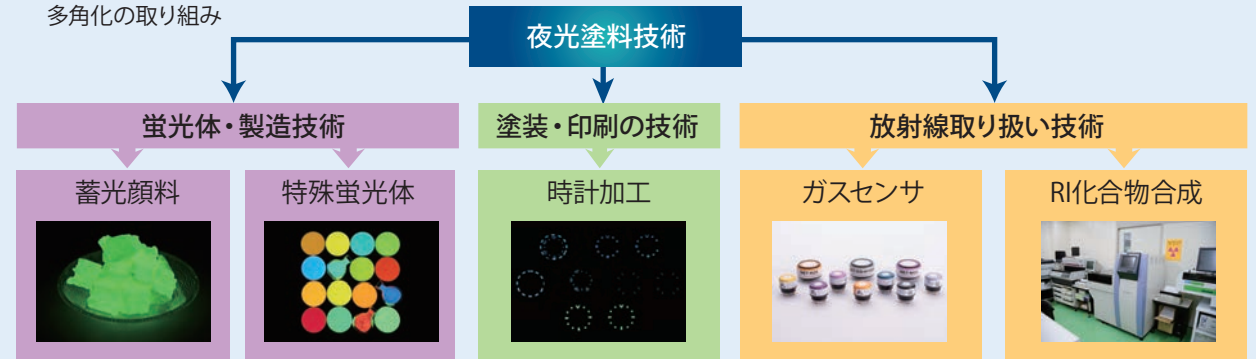
## 画期的な新製品「N夜光®」の 開発が飛躍を遂げる原動力に！

ただし、今日までの道のりは決して平坦ではなく、80年代の終りに大きな試練が待ち受けていた。それまで「蓄光顔料」には、ごく微量の放射性物質が含まれていた。それが光を放つ仕掛けとなっていたし、人体には悪影響のない程度の量だった。しかし、当時は環境保全に対する関心が急激に高まり始めた頃だったため、「放射性物質入りの蓄光顔料はもう使用しない」とある大手時計メーカーに宣告されたのだ。

この苦難を乗り越えるため、根本特殊化学の技術者は試行錯誤を兼ねて新製品の開発を急いだ。そして1993年、放射性物質はもとより、他の有害物質も一切含まない独自の蓄光顔料「N夜光®」を発明した。地球温暖化ガスであるCO<sub>2</sub>も排出せず、暗闇の中で光り続ける時間の長さや輝度(明るさ)が従来の蓄光顔料の約10倍に達するという画期的な新製品だった。

郁芳さんは2008年7月から会長職に退く一方、2010年か

## ■ネモトグループの事業展開 三つのコア技術を用いた特殊化と 多角化の取り組み



ら父の側で働くようになった美恵子さんは、2019年7月から社長職を担うことになった。かねてより「企業活動を通して、人・社会・地球環境に貢献する」との経営思想を掲げてきたが、2021年に美恵子さんはパーパス(企業の存在意義)を定め、自分たちが進むべき方向性を再確認したうえで、「特殊化・多角化・国際化」の方針を受け継ぎながらも、自分流の組織づくりに乗り出している。

「仕事に打ち込めるのは、家族の支えがあってこそ。だから

ら、従業員が自分の家族を大事にできる職場にしたいと考えています。当社の場合は、自分の子どもが熱を出したら、男女を問わず周囲に気兼ねなく早退できます。職種によっては、子供の病気や家族の介護での在宅勤務も認めています。今年の6月からは、年功序列ではなく能力別の新たな人事制度も導入しました」

次にタスキを受け取る人の姿が眼前に迫るまで、美恵子さん流の「安全・安心」と「健康」を追求する経営が続く。

## 杉並の星

### 2代目として成長基盤をつくり事業を拡大させた 「根本郁芳」

今や蓄光顔料で世界的なシェアを誇る根本特殊化学の大きなターニングポイントが1970年だ。2代目として経営を引き継いだ郁芳さんは、他社の製造工場を譲り受け、会社を「夜光塗料の加工屋」から脱却させ、「塗料製造会社」として再出発させた。特殊蛍光体の製造技術もここから始まった。1978年には高井戸技術開発センターを作るなど、技術開発への投資にも積極的であり、さらにその技術を基に海外展開も始めた。

海外展開には、時計の諏訪精工舎(現セイコーエプソン)の社長を務めた服部一郎さんの言葉に押されたともいう。服部さんからの言葉はこうだ。「私たちが「世界のSEIKO」になれた

のは、根本特殊化学の、世界に通用する技術があったからこそ。だから、君たちだって世界一になれる」と。

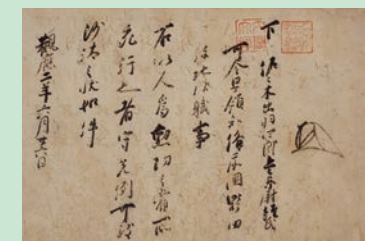
根本特殊化学には、郁芳さんの次のような言葉が残っている。「自分の役割が何かを理解できる人間になってほしい」。そして、その上でその能力を向上させていってほしいと。一人ひとりの成長が技術を高め、事業を広げる。人を大事にする、根本のDNAだ。



2代目代表取締役社長 根本郁芳

## コラム 会社の不思議これって何？

根本特殊化学の社章はユニークな形状をしている。これは足利尊氏の「花押」。花押とは、その人にしか書けないサインであり、日本独特のものだ。では、なぜ根本特殊化学が、社章に足利尊氏の花押を用いているのかと言えば、創業者の根本謙三さんが足利の出身であったことから。そこで足利家の子孫の了承を得たうえで、創業25周年の折に社章として採用した。



(画像:国立公文書館)



本社の外壁に飾られている社章



# 練

「練」という言葉は、繰り返し手をかけて上質のものにするという意味を持っています。そして「熟」とは、十分に成長を遂げること。習得した技術を日々の研鑽で練り上げ、究極の域まで成長を果したことを表現するのが「熟練」という言葉。今回、スポットを当てた2人は、過去に杉並区技能功労者として表彰された熟練のマイスターたちです。

## 須田時計店 (すだとけいてん)

25歳で西荻窪に自分の店を開業し、97歳になった今も時計の修理に励む

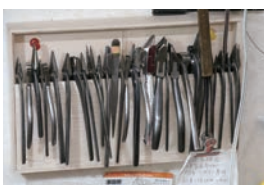


「時計は機械の基本で、あらゆるメカニズムが組み込まれている」と須田さん。その修理を巧みにこなす須田さんの指先がしなやかで艶もよく、若々しかったのが印象的だ。

他の時計店で「この故障の修理は無理」と断られた客から相談を持ちかけられるケースも多いが、須田さんは二つ返事で引き受ける。70年余りにわたって評判が評判を呼び、あちこちから客が足を運ぶ。取材時には、常連の女性客がアクセサリーの修理を依頼するために訪れ、須田さんと談笑していた。



時計に眼鏡、アクセサリーを取り扱い、各々の修理も対応。



多数の工具が並ぶが、これだけあってもまだ足りないとか。

JR中央線西荻窪駅の南口を出て徒歩数分の場所に、昔ながら風情を残した「須田時計店」がある。その店主は、97歳になった今も時計修理職人として辣腕を振るう須田喜八郎さんだ。16歳で精密機械会社に入社した須田さんは、その職場で基礎となる技術を学んだ。そして、時計職人だった叔父の下で修行後、25歳で「須田時計店」を開業して独立を果たした。

「すでに父が高齢だったので、少しでも早く一人前になって親孝行したいと思い、自分の店を構えました。当時はみなさんが夜遅くまで仕事に励んでいたし、家路に着く途中で立ち寄るお客様も多かったのも、私も23時頃まで店を開いていました。夜遅くまでボツンと灯りがついているものだから、近所の人たちから『西荻の灯台』と呼ばれていたみたいですね」

他店で修理できないと断られた時計でも、須田さんのところに持ち込めば直ったことから、評判が評判を呼んで店は大

繁盛。だが、早朝から深夜まで猛烈に働き続けたことから、50歳を迎えた頃に須田さんは体調不良を感じるようになった。

「医師に診察してもらったら、特にどこも悪いところは見当たらないので、運動不足が原因かもしれないと言われました。確かに、店の中で時計を修理し続けていて、ほとんど動いてなかった。そこで、ジムに通い、毎週のように山にも登り始めました。中央線沿線にある山は、ほぼ制覇したと思います」

活発に体を動かすようになった途端、須田さんの体調は目に見えて回復。さらに50年近くの歳月が過ぎた今も店頭に立ち、持ち込まれた時計の修理に対応している。依然、「当店は直せない」とサジを投げたことは一度もない。

「時計のような機械も、無理をさせず大事に使い、歯車にきちんと油をさせば、100年経っても時を刻み続ける。人間も健康が大事で、それを維持するには普段の心掛けが大事です」

- 店名: 須田時計店
- 所在地: 〒167-0053 杉並区西荻南2-27-11
- 代表: 須田喜八郎
- 設立: 1952年
- 事業内容: 時計・眼鏡の販売、修理
- TEL: 03-3332-3437
- 営業時間: 10:00~18:00
- 定休日: 日曜日・月曜日



## ベルク・バイオリン工房 (べるく・ばいおりんこうぼう)

バイオリン製作一筋40数年のキャリア 弟子の育成が職人としての集大成に



「バイオリン製作で求められるのは器用さよりも、一つ一つの作業における正確さ」と桂さん。こつこつと丹念に、一心不乱で加工を続けていく。

バイオリンの最高峰であるストラディバリウスの修理・調整も手掛けてきた桂さん。工房には、ストラディバリウスから取った型が保存されており、それをもとに木材を削り上げてバイオリンを製作。国際コンクールにも新作の楽器を出展しているバイオリン製作者だ。



ネックとボディの角度など、緻密な調整作業が求められる。



この型をもとに、バイオリンのボディ部分が製作される。

美しい流線型を描くボディに渦巻の彫刻が施されたヘッド、それらをしなやかなラインでつなぐネック部分。音色はもちろん、その造形も非常に芸術的なバイオリンだが、実は分厚い板や角材を丹念に削り上げ、曲げや貼り合わせなどの加工を施し、途方もない数々の工程を経て完成に至る。

目の前で黙々と作業を行うのは、バイオリン製作で44年のキャリアを誇る桂敏明さんだ。ボディの表の板は松、裏はカエデで、木目が左右対称になるように型を取ってノミで荒削りを行う。その作業を終えると、独特のアーチを描くように繊細な削りと丁寧なカンナ掛けで完成形へと近づけていく。

桂さんは新品のバイオリン製作だけでなく、ヘッド・ネック部分の交換や弦を支える駒の立て直し、弓の張り替えなどといった修理も幅広く請け負っている。また、古い楽器の修復にも携わり、数々の銘器の美しい音色を蘇らせてきた。

桂さんとバイオリンとの出会いは小学3年生の頃で、学校の授業で独特の低音に魅了された。バイオリン教室に通ったものの、練習嫌いで挫折。ただ、その音色はずっと好きで、たまに奏でていた。やがて、桂さんは薬剤師になるために大学に進むが、1年で中退して他校を受験するも不合格に。22歳になるまでには定職に就こうと焦っていた1979年、新聞でバイオリン製作見習い募集の求人広告を目にした。

挫折して去る同僚も相次いだ、この道しかないという覚悟を決め、厳しい修業生活を耐え抜いた。「バイオリン製作が好きだと感じるようになったのは最近」という桂さんの言葉が印象的だ。トンネルの先に浮かぶ薄光。その光が次第に近づき、眼前まで届いた1990年、桂さんは独立して工房を開いた。そして、16年前から桂さんは弟子を迎えた。「人を育てなければ、本当の職人にはなれない」とのポリシーがあるからだ。

- 工房名: 有限会社ベルク・バイオリン工房
- 所在地: 〒167-0054 杉並区松庵3-39-3
- 代表: 桂敏明
- 設立: 1990年
- 事業内容: 販売・修理・バイオリン製作
- TEL: 03-3334-7179
- 営業時間: 10:00~19:00
- 定休日: 日曜日・月曜日
- https://bergviolin.jp/





# すきなみの 味めぐり

新店舗も老舗も、どこか個性派ぞろいの杉並区。  
まわりの人たちと楽しんだり、一人でリラックスしたり。  
お気に入りの味わいを見つけに街を歩いてみてはいかがでしょうか。

## きつつきコーヒー 木突木珈琲



店内には、仕入れた珈琲用品なども並ぶ。焙煎機は現在、地下にある。カフェでの「永遠の定番」は開店当初からある「木突木ブレンド」。一般的にはブレンドに用いられない珍しい珈琲豆も使っている。苦みとコクがしっかりした味わいを楽しめる。「珈琲を飲み続けている方が好むようなブレンドかもしれませんね」とお店では勧める。



### 独自の焙煎技術で、地元からも全国からも愛される珈琲

元は異業種で店を営んでいた突々啓行さんが、ガレージを焙煎所に改装し、珈琲豆などの卸売専門店として始めて30年超。口コミで広がり、現在は日本全国のお客様にも珈琲豆の定期便を発送している。一方、ガレージの軒先から始まったカフェが本格化し、珈琲、紅茶などを楽しめる。お店でお客同士が仲良くなり縁が広がることもあるそう。令和4年度杉並区技能功労者（コーヒー豆焙煎工職）として表彰された突々さん。技術は開業前の他店での勉強などを元に磨き上げたもの。春夏秋冬、季節の変わり目を感じながら丁寧に焙煎されている。

- 所在地: 〒168-0071 杉並区高井戸西 2-12-22
- TEL: 03-3333-7224
- 営業時間: 10:00~17:00
- 定休日: 月曜日・火曜日・金曜日



## ジャマ・ジャム Jame Jam



おすすめは、ジュージュ・キャバブ（チキンの串焼き）とクービーデ・キャバブ（ラム肉ミンチ串焼き）にイラン風バターライスと焼きトマトを添えたチロウ・キャバブ・ミックス（2460円）と、豆とチキンをトマトで煮込んだドル・ゴルビヤ（1080円）。

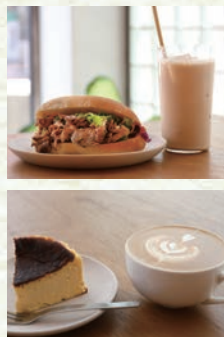
### 古来ペルシャの伝統料理と文化を日本に伝えたい

古来ペルシャ（現イラン）の伝統料理や文化を現代の日本に伝える店で、同国の首都・テヘランのホテルや都内のレストランでシェフを務め創業者やキャラバンディさんが2007年にオープン。店名の「Jame Jam」は、かつてペルシャの王が持っていたとされる伝説の杯に由来する。その杯は、世界中の景色や人々を見渡すことができたとか。「世界中の人々が来店し、料理と会話を楽しんでもらいたい」とのシェフの思いが込められている。辛い料理が多く、ヘルシーな食材を用いた本場の味で、日本人好みの繊細な味付けが、老若男女を問わず好評。

- 所在地: 〒166-0004 杉並区阿佐谷南 2-20-7
- TEL: 03-3311-3223
- 営業時間: ●月～日曜日 11:30～14:30 (LO.14:00) ●月～日曜日 17:00～23:00 (LO.22:00)
- 定休日: 不定期



## しんきろうコーヒー 蜃気楼珈琲



日替わりの店主は、人づてにインスタグラムからのDMなど、さまざまな経緯で集う。取材日の朝の店主はマサラチャイを出す「里Chai」のさとしさん（右上写真: サンドイッチとチャイ）、昼の店主は「COFFEE&BAKE」のしおりんさん（右下写真: チーズケーキとカフェ・ラテ）。「人が集まって交流する場所になることが街にとって良いことだと思う」と上田さんは話す。

### 日ごと異なる店主に会えるシェアリングコーヒーショップ

富士見ヶ丘の地下スナック街からスタートした蜃気楼珈琲。「場所や『蜃気楼』という看板の雰囲気から惹かれて」と代表の田上凜太郎さん。田上さん自身はシアトル留学時に珈琲に魅力を感じ、帰国後はカフェで勤務。蜃気楼珈琲は当初1年限定の予定だったが、手ごたえを感じ、カフェ&ロースタリーも2023年にオープン。カフェを開きたい人が店舗を持つ前の挑戦の場にも活用され、スタート以来、多くの店主が立ってきた。日曜には「蜃気楼公民館」となって催しが開かれるなど、日ごと時間ごとに異なる色合い。まさに蜃気楼だろう。

- 所在地: 〒168-0082 杉並区久我山 5-24-35
- 営業時間: 8:00～22:00
- 定休日: 不定休



## 創業スタートアップ助成でサポート!

杉並区では2023年に「創業スタートアップ助成事業」を行い、スタートアップの中小企業を支援しました。この助成事業は事業者を支え、区内産業の促進を目的とするもの。活用した多くの事業者が魅力ある事業を創り出しています。

## カフェニュートラル cafe neutral



カウンターやテーブル、椅子などは岡本さんが選んだもの。女性の一人客も多いが、親子での来店も多いという。実は、カウンターの椅子は子どもたちに人気で取り合いになるのだとか。創業260年超のダウエグバーツのコーヒーは日本では基本的に個人向けに展開されていないため、カフェで飲めるのは珍しいと言える。

### 女性一人でも肉料理を気兼ねなく食べられる落ち着いた店内

オランダのコーヒーブランド「Douwe Egberts (ダウエグバーツ)」のエスプレッソを楽しみ、女性一人でも入りやすいように作られたカフェ。鮮やかなブルーの扉を開くと、ウッド調で青い壁紙がシックな店内が広がっている。もともと居抜き物件を探していたという、オーナーの岡本愛美さん。縁あって中野富士見町駅から徒歩数分に位置している現在のお店を見つけ、内装や家具類も大きく改修して開店に至った。入口をスロープにしてバリアフリー化が図られている。カフェでありながら開店してみるとお店が想像していた以上に食事を目的に来店するお客様も多かったという。ビーフステーキ、唐揚げ、ハンバーグ、ローストビーフなど肉料理が多いことも特徴だ。

- 所在地: 〒166-0012 杉並区和田 1-3-10丸宮商店ビル1F
- TEL: 03-6454-1548
- 営業時間: 10:00～21:00
- 定休日: 水曜日・木曜日



## かどわきくん てるこさんと門脇君



人気メニューは毎日仕込んでいるというパスタ。右下の写真は「あか牛のポロネーゼ」。麺よりも肉の量が多いほどで、肉の強い甘みを感じられる。一品ずつ、注文を受けてから作るという。他にも、自家製で3日間かけて完成させるスモークタケノコといったアンティパスト（前菜）など、オリジナルのメニューも楽しめる。

### 焼肉もホルモンも塊肉も。イタリアンの技術もアクセントに

八幡山駅からほど近い焼肉店。仕事帰りのお客様やファミリー層など、地元の八幡山に住む方の来店が9割。「地元密着店を作ろうと思いました。八幡山の方は本当に皆さん優しいですよ」と店長の横関哲也さん。吉祥寺で予約の取りづらい店として名の知られた「肉山」の店長を務めた後、2022年にオープンさせた。開店時には杉並区の助成事業を活用。申請のプロセスでのアドバイスも有益だったという。ユニークな店名は、横関さんの母親と、イタリアンの技術などを教えてくれた友人の名前から。また、店では食材の大部分を活用することで、ロスの削減にも取り組んでいる。もともと持っていたロス削減意識は、イタリアンの技術を学んだことによりさらに進んだそう。メニューに並ぶ肉の希少部位は、熊本などの現地に直接行って、生産者と「牛」に会うからこそ取り揃えた。

- 所在地: 〒168-0074 杉並区上高井戸 1-1-10 クレーネ八幡山 2F
- TEL: 03-4400-8298
- 営業時間: 17:00～23:00
- 定休日: 不定休





すぎなみ産 発刊にあたって

## 杉並の仕事は面白い!

約20,000の事業所と、その仕事。

「すぎなみ産」は、杉並区に産まれた仕事を集めました。

自然と生活が混じり合う、暮らしやすいこの街に、

多種多様な産業は結びついています。

面白がって、面白い。

好きなことを楽しんでやって産まれた身近な物事。

杉並発の産業は、こんな顔立ちでした。

杉並の仕事は面白い!



### 杉並区産業振興センター

〒167-0043 杉並区上荻1-2-1 Daiwa荻窪タワー2F  
TEL.03-5347-9077 (就労・経営支援係)

杉並区内産業のさらなる発展を図るため、区内産業団体(東京商工会議所杉並支部、杉並区商店街連合会、杉並産業協会)と同じフロアに設置した区の産業振興部門です。それぞれの団体と連携しながら、商店街や中小企業の支援、観光・アニメ事業の推進、都市農業の振興など、区内産業の活性化に向けた取り組みを行っています。

#### ■主な取扱業務

中小企業資金の融資あっせん、商工相談  
就労支援、創業支援  
商店街の各種支援事業  
観光事業の推進、アニメの振興  
特定商業施設に関する届出  
都市農業の振興、区民農園の管理  
中小企業勤労者福祉事業



### 杉並産業協会

〒167-0043 杉並区上荻1-2-1 Daiwa荻窪タワー2F  
TEL.03-3220-1231

杉並区内の法人および個人を中心とした事業主で組織運営されている唯一の産業団体です。労働保険事務組合として労働保険の取り扱いも行っています。会員企業には労働保険事務組合への加入の他にも従業員福利厚生のための健康診断、レクリエーションの企画や事業主の皆様には優良工場見学、講演会、賀詞交歓会等の開催などを行っています。

#### ■主な取扱業務

関係官庁に対する届出書類の記入代行・指導  
労働保険事務組合の運営  
講演会・交流会の開催  
団体への表彰者の推薦  
会員企業に勤める従業員の方への福利厚生事業  
会報の発行  
会員間の親睦事業

すぎなみ産 vol.7 令和5年10月発行

編集・発行:杉並区産業振興センター  
〒167-0043 杉並区上荻1-2-1 Daiwa荻窪タワー2F  
TEL.03-5347-9077

登録印刷番号  
05-0061

制作:杉並産業協会  
クリエイティブ・ディレクター/アート・ディレクター:岸部浩三  
ライター:大西洋平  
ライター・エディター:三坂輝  
カメラマン:豊田佳弘(表紙・p1~6)